

平成21年度 千種高等学校 学校評価(学校自己評価)

1 学校教育目標	2 重点目標
恵まれた自然環境と地域に根ざす伝統・文化や産業を教育活動に生かし、個性が輝く体験や実践をとおして、“美しい兵庫”をめざす豊かな人間性をはぐみ、自ら考え、自ら学び続ける人間を育成する。	1 地域に貢献し、地域に支えられる学校をめざす。 2 福祉及び環境に関する理解を深め、地域における継続的なボランティア実践を行う。 3 習熟度に応じた個別指導、選択授業を重視することで、生徒に学習の喜びを与え、興味・意欲の高揚を図る。 4 各自の能力・適性の発見や自己理解を援助し、将来にわたり個性と能力を最大限発揮し得る生徒の育成に取り組む。 5 小規模校の特性を生かして、生徒の内的理解に努め、一人ひとりの心に響く指導にあたる。

3 学校自己評価 (A…よくできた B…できた C…あまりできなかった D…できなかった)

領域	評価の観点	評価項目	番号	実践目標	21年度評価	A	B	C	D	今後の改善方策等
学校運営	開かれた学校づくり	家庭や地域への情報発信	1	学校のホームページや「千高だより」・「連携型中高一貫教育校だより」、また「学年通信」等を通じて、学校の情報を可能な限り提供する。	A	9	1	0	0	「たより」は継続していく。ホームページについては、改善案や更新策を、各部署から募集する。また、質の保持と継続のため、複数で担当する。
		学校評議員制度等を活用した学校運営の推進	2	学校評議員会を定期的に開催し、また学校評議員に授業や学校行事に参加してもらい、それらについての意見を学校運営に役立てる。	B	4	5	1	0	年度当初に実践目標を明確にし、学校評議員に報告する。9月末頃に評価の中間報告を取りまとめ、年度後半の取り組みに反映させる。
		学校施設や教育資源の地域への開放	3	学校施設を定期的に地域の活動のために開放する。	A～B	5	5	0	0	現在学校施設を定期的に使われている「和太鼓」や「柔道教室」の取り組みを地域に紹介し、地域の人が学校により入りやすく利用しやすいようにする。
	生徒指導	生徒指導方針の確立と指導体制の推進	4	年度当初に生徒指導方針を明確に職員・生徒に示し、定期的にその方針の達成状況を確認し指導する。	B	2	5	1	2	生徒指導委員会の定期開催・生徒指導規定の見直しと改善・全校集会の継続。
		生徒の内面の理解を図る指導の工夫	5	生徒の個人面談を定期的に行うとともに、家庭と密接な連携を図り、必要に応じて家庭訪問を行う。	A～B	5	5	0	0	学期に1度生徒との個人面談の実施。
			6	キャンパスカウンセラーによるカウンセリング研修を実施し、生徒の内面理解を図る指導方法の共有を図る。	A	7	3	0	0	本校生徒の実態に即した内容の研修会を持つ。(特別支援教育・カウンセリング事例など)
	進路指導	進路指導体制の充実	7	3年間を見据えて、進路指導に関する年間計画を作成し、組織的・継続的に進路指導を実施する。	B	1	6	2	1	進学、就職それぞれに対する進路指導計画を作成する。
		職業観・勤労観の育成と進路意識の向上	8	指導計画に就業体験を位置付けし、また外部講師による進路講演会などを実施しながら、生徒の職業観・勤労観を高める。	B	4	6	0	0	もっと地元企業に働きかけ、講演依頼は勿論のこと、就業体験の機会を依頼する。また、卒業生との懇話会を実施し、就業を身近で現実的な問題としてとらえさせる。
	教職員の資質向上	実践的指導力の向上	9	いつでも地域に授業公開ができる体制を整える。	B	4	5	0	1	指導方法についての研修の機会を設ける。各教科ごとに研究授業を実施し、意見交換をすることによって、授業の質の向上をはかる。
		計画性を持った研修の実施	10	進路・教務・生徒指導等、学校の課題について校内研修を計画的に立案する。	B	1	6	2	1	部署内での意見交換の機会を定期的に設け、学校の課題を明示する。それをもとに各部署で校内研修(講演会等)を計画・実施する。
	危機管理体制の整備	実効ある学校マニュアルの策定	11	防災・事故・防犯等に関する危機管理マニュアルを作成し、職員室などにその要点の掲示をする。	B	4	5	1	0	掲示するだけでなく、危機管理に関する研修会を持ち、全職員が共通理解をし、意識をもっておく。
		家庭・地域・関係機関と連携した危機管理体制の推進	12	家庭・地域・関係機関との連携を密にし、安全・安心な学校にするための危機管理体制を整備していく。	B	2	5	3	0	消防、警察、PTAと合同の訓練を行う。
	学校運営全般	学年・学級経営	13	生徒の資料、指導・実践の記録等を蓄積し、教師間で情報交換を行う。	B	2	5	3	0	定期的に学年会議を行う。また、学年だけでなく職員全体で情報を共有する。
			14	学級委員の活用により、明るく活発で美化に心がけた学級経営を行う。	B	1	5	4	0	学級委員の仕事を示し、生徒が自主的に動く学級経営を目指す。

	PTCA活動	PTCAとの連携	15	学校行事に保護者や地域の人の参加を呼びかけ、また生徒・職員が地域の行事に積極的に参加する。	A~B	5	5	0	0	年間の行事計画を早めに保護者・地域に広報し、行事計画を協力者の立場で参加してもらうようにする。
教育課程	自ら学び自ら考える力の育成	体験的・問題解決的な学習の展開	16	地域貢献活動・就業体験・ふれあい育児など具体的な体験的活動を多く取り入れ、授業の中でも問題解決的な学習を展開している。	B	3	6	1	0	体験活動は十分に取り入れているので、それぞれの計画を入念にし、さらなる効果を目指す。問題解決的な学習は、効果が期待できるものを中心に、各教科やLHRで取り入れる。
	基礎・基本の定着	生徒の学力の把握と評価基準の設定	17	それぞれの生徒の学力に応じた習熟度別授業や少人数指導などの指導方法を工夫し、生徒の実態にあった評価基準を設定する。	A~B	5	5	0	0	少人数での授業の推進。評価基準の明確化と共通理解。
	総合的な学習の時間	教職員の協働体制の確立	18	生徒の興味・関心・適性を把握し、そのニーズにあった学習テーマを設定し、職員が協働して取り組むための連携がとれている。	B	0	6	4	0	役割分担を明確にし、有識者や地域人材を活用する。また、年度当初に年間指導計画を明示する。
	個に応じた学習指導の徹底	評価方法の創意工夫	19	評価方法について全職員で各教科の評価に対して意見交換を行う。	C	0	3	5	2	一定の評価基準を設け、また多様な生徒に対応する評価方法の意見交換の場を設定する。
	特別活動(学校行事など)	自主的・実践的な活動の活性化	20	委員会活動やHR活動の充実に努め、生徒会活動など生徒の自主的な活動を活性化する。	B	0	6	4	0	各委員会を定期的に行い、委員としての仕事を積極的に行うようにする。
		部活動の活性化	21	小規模校の特性を生かしながら、部活動を活性化する。	B	2	5	3	0	千種中学校との部活動連携をより推進する。また、強化指定の部活動を実質的にアピールできる部に育て上げる。
		ボランティア活動	22	地域貢献活動や災害復興支援などの実践をとおして、自主的なボランティア活動への意欲と態度を養う。	A	6	4	0	0	特別なものとしてではなく、日々の取り組みとして、学年毎に活動内容を計画・実施し、生徒全員の意欲を高める。(苗を育ててプランターづくりをし、施設などに配布するなど)
	防災・安全教育	教員の防災教育に係る指導力・実践力の向上	23	定期的な防災訓練を計画し、可能な限り地域住民と共に意識の高い訓練を行う。	B	2	7	1	0	水害の経験から今年は防災に対する意識も高く、消防の方に工夫した防災訓練をしていただいた。この防災意識を継続し、来年はさらなる地域の参加を呼びかける。
		実践的な安全教育への取組	24	長期休業前などに救急救命講習会を実施し、救急救命に対し教職員と生徒の意識と技術を高める。	A~B	5	5	0	0	教職員向けの研修・全校生徒への研修を、消防署や校医の協力を得て実施する。生徒への意識付けをより強くする工夫を行う。
人権教育	人権教育推進体制への取組	25	3年間を見通した人権LHRの充実を図り、身近な問題をテーマに人権について話し合わせる。	C	0	3	5	2	担当者会議を数回に分けて設け、3年間で社会に出るための人権に関わる一通りの知識をつけることを目指した計画を作る。次年度以降はその計画を基に人権教育をすすめられるような指導計画を構築する。また、内容を全職員の周知にする。	
情報教育	情報モラルの育成	26	人権尊重を基盤として、プライバシーの保護や著作権の尊重性を考えさせ、出会い系サイト等に潜む危険性について指導する。	B	1	6	2	1	実業警察などの講演会を継続し、ネット犯罪の危機を生徒に知らせる。携帯電話の利用状況などのアンケートを生徒に実施し、実態を把握した上で指導に当たる。また、著作権、プライバシーの保護などに関するリーフレットを人権担当で作成し、各学級で担任が指導する。	
環境・福祉教育	高齢者や障害のある人などへの理解を深める指導の推進	27	福祉施設や特別支援学校との交流や奉仕活動を通して、福祉への理解、福祉活動に取り組んでいく意欲や態度を育てる。	C	0	3	7	0	「ちくさの郷」の利用者や地域の高齢者が体育大会、文化祭等の学校行事に来てくださる機会を利用し、交流の場を設ける。また、志引峠、町内清掃活動を行っていることを、環境教育として位置づけ継続していく。	
学校の個性化・多様化	特色ある教育課程	28	学校設定科目や多様な選択科目を設定し、類型の特色化と、小規模校としてのより効果的な教育方法を研究する。	A	5	4	0	1	多様な生徒の個々の進路実現が可能になる特色ある教育方法を研究する。	
	外部講師の活用	29	地域人材・有識者等を特別非常勤講師として活用し、生徒の多様な興味・関心に応えようととも、より発展的で体験的な授業内容の学習活動を展開する。	B	4	5	1	0	生徒の意見も取り入れ、また生涯を通して役立つ内容のものを厳選し、外部講師を依頼する。	
	連携型中高一貫教育校としての教育活動推進	30	千種中学校との連携授業や行事を、地域の支援を受けながら計画的に押し進める。	B	4	6	0	0	千種高等学校からの協力要請というかたちでなく、地域のために千種高校を存続させる方策を中学校職員や地域と共に考えていく。	

※高い評価の項目番号→1・3・5・6・15・17・22・24・28

※改善すべき項目番号→19・25・27

平成21年度 学校評価（自己評価）のまとめ

特に高い評価だった項目

家庭や地域への情報発信	「千高だより」や「連携型中高一貫教育校だより」を定期的に地域に配布し、学校からの情報発信ができています。
生徒の内面の理解を図る指導の工夫	少人数の利点を生かしながら、生徒への行き届いた心のサポートができています。また、キャンパスカウンセラーによる生徒の実態に即した研修会を持っています。
ボランティア活動	毎年恒例になっている全校生による志引峠の不法投棄物処理清掃活動や、ボランティア部の活動が評価されていますが、特に今年度は台風9号大水害被害地域への全校生による迅速なボランティア活動ができました。
特色ある教育課程	多様な生徒の実態に合った3コース（アクティブ・ベーシック・チャレンジ）が地域や近隣の学校に認知されています。また、地域の人材を有効に年間を通じて活用できています。

今後の課題項目

評価方法の創意工夫	学力的に大きな差があるだけでなく、生徒個々の能力的な差にいかに対応して指導と評価をしていくかが課題であり、職員研修を積み重ねなければならない。
人権・福祉教育	3年間を見通して計画を立て、学年事の目標を立てることが必要である。
連携型中高一貫教育への取り組み	試行年の今年度は、計画的に連携行事と連携授業を実施することができ、1月の「中高連携授業研究協議会」でも多くの参加者を得て高い評価を受けることができた。来年度からの実施に向け、より一層の充実した取り組みが求められている。

平成21年度 千種高等学校 学校評価<学校関係者評価>

学校教育目標	重点目標
恵まれた自然環境と地域に根ざす伝統・文化や産業を教育活動に生かし、個性が輝く体験や実践をとおして、“美しい兵庫”をめざす豊かな人間性をはぐくみ、自ら考え、自ら学び続ける人間を育成する。	1 地域に貢献し、地域に支えられる学校をめざす。 2 福祉及び環境に関する理解を深め、地域における継続的なボランティア実践を行う。 3 習熟度に応じた個別指導、選択授業を重視することで、生徒に学習の喜びを与え、興味・意欲の高揚を図る。 4 各自の能力・適性の発見や自己理解を援助し、将来にわたり個性と能力を最大限発揮し得る生徒の育成に取り組む。 5 小規模校の特性を生かして、生徒の内面的理解に努め、一人ひとりの心に響く指導にあたる。

※千種高校の取組みについてA～Dで評価してください。わからない場合は空欄にしておいてください。

A…よくできている B…できている C…あまりできていない D…できていない

領域	評価の観点	評価項目	番号	評価内容	21年度	A	B	C	D	
					評価					
学 校	開かれた学校づくり	家庭や地域への情報発信	1	学校のホームページや「千高だより」・「連携型中高一貫教育校だより」、また「学年通信」等を通じて、学校の情報を可能な限り提供している。	A	7	2	0	0	
		学校評議員制度等を活用した学校運営の推進	2	学校評議員委員会を定期的に開催し、また学校評議員に授業や学校行事に参加していただき、それらについての意見を学校運営に役立てている。	A～B	4	4	1	0	
		学校施設や教育資源の地域への開放	3	学校施設を定期的に地域の活動のために開放している。	A	6	3	0	0	
	生徒指導	生徒指導方針の確認と指導体制の推進	4	生徒は地域でのルールやマナーを守り、服装も高校生らしくできている。	B	3	4	2	0	
	運 営	進路指導	進路指導体制の充実	5	就職・進学等の適切な進路指導ができており、地域や保護者の信頼を得ている。	A	6	3	0	0
		危機管理体制の整備	家庭・地域・関係機関と連携した危機管理体制の推進	6	家庭・地域・関係機関との連携を密にし、安全・安心な学校になっている。	A	5	4	0	0
		学校運営全般	教育環境	7	教育施設・設備の充実と美化に努め、学習環境を整えている。	A	5	3	1	0
		P T C A活動	P T C Aとの連携	8	学校行事などで、保護者や地域の人との連携・交流ができています。	A	7	2	0	0
教 育 活 動	心の教育	福祉への理解	9	近隣の保育園児・幼稚園児とのふれあいや、福祉施設・特別支援学校の方との交流を通して、福祉活動に取り組んでいく意欲や態度を育てている。	B	2	6	1	0	
	特色ある教育	特色ある教育の推進	10	生徒個々の学力に応じた指導、生徒のニーズに応じた3コース（アクティブ・ベーシック・チャレンジ）の設定、地域の人材活用などができている。	A～B	4	4	1	0	
全 般		連携型中高一貫教育校としての教育活動推進	11	千種中学校との連携授業や行事を、地域の支援を受けながら計画的に推し進めている。	A	7	2	0	0	
		地域からの支援と理解	12	千種高校は、地域から支援され、信頼される学校になっている。	B	4	5	0	0	

学校評価方法について

アンケートは、オープンハイスクール（中学生対象）、体育大会（一般参加者対象）、オープンスクール（一般参加者対象）、また生徒に対しての授業アンケートを2学期に実施しており、情報収集はよくできている。3学期には、保護者・生徒に対しても学校評価ができており、ほぼ期待通りの結果が得られている。

学校関係者評価委員会の総合的なまとめ

・保護者や地域に対して開かれた学校づくりの推進については、よくできていると高い評価を得た。また、「千高だより」や「連携校だより」等で情報発信ができており、学校行事等でも保護者や地域との連携・交流がよくできていると評価を受けた。

・連携型中高一貫教育校としての取り組みは、千種中学校との連携授業や行事を地域の支援を受けながら計画的に推し進められていると高い評価を得た。

・生徒指導の充実については、保護者や地域からの評価も上がっているが、今後さらに地域や保護者からの協力・支援を得ながら、更なる充実を期待すると要望された。

・生徒の進路目標を達成できるよう『基礎学力』の定着・向上を大きな教育目標にしてほしいと要望された。

・学校関係者評価シートについては、さらにわかりやすい評価シートの作成を要望された。